

甦れ、“大人の雛祭り”～日本の伝統文化「^{ちようよう}重陽の節句」～
業界初、一般公募デザインによる「“大人向け”雛人形」
3モデル、10月4日（金）より発売

一般社団法人日本人形協会（所在地：東京都台東区、会員加盟店数：全国 373 社）は、“大人の雛祭り”をコンセプトにした、「重陽の節句」向け雛人形、3モデルを10月4日（金）より発売開始いたします。本製品は、日本人形業界が初めて、雛人形のデザインを一般より募集し、多数の応募の中から、最優秀賞1点、優秀賞2点を商品化したものです。

当協会では、「重陽の節句」で行う“大人の雛祭り”【通称：後の雛（のちのひな）】を10月9日（旧暦9月9日の月遅れ）に設定し、今後、ネット販売を中心に、全国各地で新作人形の販売イベントを展開いたします。

◆ 最優秀賞「化粧雛」◆



【商品化の背景】

旧暦9月9日は、五節句（※1）の一つである「重陽の節句」（菊の節句）にあたり、江戸時代初期より、庶民の間で雛人形を飾り、長寿を祝う、「後の雛（のちのひな）」という風習が広まりました。しかし、現在の9月9日が菊のシーズンと合わないことから、年々節句行事が行われなくなり、秋に雛人形を飾る風習は、世間からすっかり忘れられている状況です。少子化や核家族化、住環境の変化で、節句行事を家族で楽しむ事が減りつつある現在、一方では、家族と過ごす時間が見直されつつあり、忘れられた伝統文化の復活を願って、現代の「後の雛」にふさわしい、新たな雛人形を製作いたしました。

※1 五節句

人日（じんじつ）：1月7日 七草の節句／上巳（じょうし）：3月3日 桃の節句／端午（たんご）：5月5日 菖蒲の節句／七夕（たなばた）：7月7日 笹の節句／重陽（ちようよう）：9月9日 菊の節句
重要な年中行事として、江戸時代に制定されました。

【 業界初、一般公募によるデザインを採用 】

「重陽の節句」を多くの方々に広めたい、特に若い方々に関心を持って頂きたいという願いから、業界で初めて、デザインをWebで一般公募いたしました。152 件の応募の中から、最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名を選定し、自由な発想で生まれたデザインを、伝統工芸職人が丹精込めて形にするという、若い才能と伝統技術の新たなコラボレーションを実現しました。

【 ～大人の雛祭り～を秋に定着化 】

節句行事は季節感が大切なことから、当協会では、菊が咲き始めるシーズンで、旧暦 9 月 9 日の月遅れにあたる、「10 月 9 日」を“大人の雛祭り”と設定し、当協会加盟店、各地イベントでポスターやチラシを配布し、積極的なPR活動を展開します。

【 新作節句人形 概要 】

◆ 最優秀賞 「化粧雛」 ◆



◆ 優秀賞 「凧」 ◆



◆ 優秀賞 「雛明かり」 ◆



名称	化粧雛	凧	雛明かり
価格	12 万円(税別)	10 万円(税別)	40 万円(税別)
発売日	2013 年 10 月 4 日(金)より、予約販売開始		
寸法 (センチ)	幅 35×奥行 22×高さ 34 ※人形の高さ 約 15 センチ	幅 30×奥行 23×高さ 26 ※人形の高さ 約 14 センチ	幅 100×奥行 70×高さ 160 ※人形の高さ 約 26 センチ
デザインの ポイント	白を基調とした人形に、好みの衣裳を着せたり、布を貼ってオンリーワンの人形に仕上げられます。	黒、ゴールド、赤を基調とした、「秋に舞う蝶」の斬新なデザインと伝統的な木目込人形の融合。	「部屋のイメージを明るく」をコンセプトに、豪華な立ち雛に、掛布と菊の造花をあしらっています。

本件に関するお問い合わせ先： 一般社団法人日本人形協会／利岡 TEL 03-3861-3950／FAX 03-3851-8248
 新作節句人形発表会 広報事務局 (アズ・ワールドコム ジャパン)／木幡 TEL 03-5575-3221

※本リリースに記載の画像データをご入用の方は、<http://www.ningyo-kyokai.or.jp/choyo/press.html> よりダウンロードいただけます。

【参考資料】

■「重陽の節句」と「後の雛(のちのひな)」について

秋を経て蝶もなめるや菊の露 芭蕉

～春に生まれ、秋もまだ飛んでいるこの蝶は、菊の露を飲んで長生きしているのだろうか～

四季折々の節句の中でも、桃の節句や端午の節句と並んで、大切にされてきた行事が、旧暦 9 月 9 日に行われる、「重陽の節句」です。不老長寿の伝説をもつ“菊”の花を用いた料理や酒を食し、長寿と健康を祝うことから、「菊の節句」とも呼ばれています。江戸時代初期から、しまっていた雛人形を再び飾る「後の雛」という風習が新たに加わり、庶民の間で一気に広まりました。

桃の節句に飾る「雛人形」は、子供の成長を願うのに対し、「後の雛」は、大人が両親や自分自身の健康と長寿を祈願しました。

■「重陽の節句」の楽しみ方

菊の被綿(きせわた)

庭の菊の花に綿をかぶせて一晩、綿に菊の香りのする夜露をたっぷり染み込ませます。翌朝、この菊の露を含んだ綿で肌を拭いて菊の薬効に健康、長寿を願います。被せる綿は色付で、赤い菊には白い綿、白い菊には黄色、黄色い菊には赤色の綿を被せたとされています。

菊の被綿



菊酒(きくしゅ)

平安時代の宮中で行われたという菊の宴では、お酒の杯に菊の花を浮かべて爽やかな薬効ある香りとともに味わいました。

菊酒



菊湯(きくゆ)、菊枕(きくまくら)

湯船に菊を浮かべた菊湯に浸かったり、菊のポプリを入れた菊枕で眠ることで美湯や健康を願います。

和菓子、菊料理

趣豊かな上生菓子や食用菊をうまく盛り込んだ日本料理を用意し、目や舌で菊の節句を味わいます。

菊をあしらった生菓子



■「重陽の節句」ホームページのご紹介

一般社団法人 日本人形協会の公式HPで、「重陽の節句」を紹介しています。是非、ご覧ください。

<http://www.ningyo-kyokai.or.jp/>